小須戸公民館報

発行所 小須戸町中央公民館
発行人 岡 謙吾
発行日 毎月15日

これからの生涯学習

―学校週五日制にどう対応するか―

～ 三市中蒲原郡公民館大会より ～

様々な立場から学校週五日制への対応が話されました。会場からも六名の方から質疑が出され、二時間があっという間に過ぎてしまいました。

七月十日、亀田町公民館で三市中蒲原郡の公民館大会が行なわれました。当日は、学校週五日制にどう対応すべきかそれぞれの立場から、パネル討議が行われましたので、その一部を紙面で紹介します。

家庭や地域で支えよう

野口徳栄さん（前五泉市子供連絡協議会代表）

今、学校週五日制について全国各地で真剣に討論されています。もちろん、地域で活動している子供会にも直接関わってきます。学校週五日制は学校と行政だけに対応を任せるのではなく、家庭と地域も中に入って一緒に考えていかなければならないのではないでしょうか。行政ができることは学校などの公共施設の開放くらいではないかと思います。

では、学校・家庭・地域はどうすれば子供たちのためになるのでしょうか。

例えば、三者一体となって現代社会に欠けている導徳的考えを指導するとか、子供たちの中からリーダーを育成し昔からの遊びを教えるなど、自発的に活動できる場をこしらえてあげるのが役目だと思っています。

これからも一層、子供たちの成長を地域で支えようと呼びかけ、子供会の関わりを強めていきたいと思います。

学校依存からの脱皮を

青木鴻一さん（新津市PTA連合会代表）

学校週五日制の問題は、私たち父母にとってはいろいろな角度からの不安や心配があります。

その理由としては

一、社会全体の週休二日制普及の遅れ

二、塾通いの増加の懸念

三、公共施設などの不足

等があげられます。このように、父母の理解と条件整備が整わないままに実施されることが、不安感を強めている原因と言えます。

学校週五日制の基本は、「これまでの学校依存の体質を改め、子供たちが学校教育の枠組みから離れて、家庭や地域の中で生活に結びついた体験活動を実践していくこと」と本に書いてはありましたが、それぞれに家庭の事情や地域環境は異なりますので、「言うは易く行うは難し」ではないでしょうか。

一方、今の子供たちは生き生きとした姿が見られないのが現状です。学校や部活に疲れ果て生気をなくした子供たちにゆとりと余裕を与えてやれるならば、そして、子供たちにとって本当にすばらしいものだなあ、というような環境づくりをしなければ、この学校依存体質からはなかなか脱皮できないと思います。

話に聞き入る小須戸町の参加者

親と子がふれあいを深めるために

栗原一成さん（亀田町教育長）

この前、学校週五日制のアンケートの中で子供たちに「放課後にいくつ習い物をしていますか」と聞きましたら、九回という子供がいました。家庭教育と地域教育の低下が言われている現在、親子のふれあう時間のないなかで、子供が大きくなって自己主張をしたとき、親がどう対処していいかわからない現実があります。

実際に私が受けた教育相談の話をしますと、登校拒否のない子供が高校卒業と同時に外へ出ようとしなくなった、と親から相談を受けました。私はその子供と話しあったり、二人でドライブをしたりするなかで、お昼に食堂に入ることを「小さい頃からこういう所で食事をしたことがない」と強く拒否したことなどから、「今までに親子のふれあいがなかったのではないか」と考えました。そこで親には「なるべく外へ連れ出すようにしなさい」と言いました。

この例からわかるように、子供を学校から、家庭や地域へ帰すのだ。親子のふれあいの時間を作るのだ。こう学校週五日制をとらえて頂きたいのです。

最後に、今までは学校教育だけという円の教育でしたが、今後はそこに家庭教育・地域教育を加えた楕円の教育と考えて頂きたいと思います。

自ら判断し選択する子供にするために

栗林貞義さん（白根市小林小学校長）

学校は教育の専門の館ですから、いろいろなことをすれば全てが良くなるとの考えがあったのではないかと思います。そのために、家庭や地域で為すべきことまでも学校で行ってしまったために、ある時には学校が苦痛になると子供たちが訴えてきています。登校拒否児はその一例と言え、このことを考えると学校は本当にこれで良かったのだろうかと強く感じています。

やはり、家庭教育で最適なものは何か、地域教育で最適なものは何かを見直しながら、学校教育の在り方を考えていかなければと思います。

これから子供たちが土曜日をどのように過ごすかについてですが、学校では慎重に取り扱いたいと考えています。様々な受け皿が考えられてはいますが、そこに全て吸収させる必要はなく、自分で判断して豊かな土曜・休日を過ごしてほしいという考えで対応していきます。

公民館と教育委員会の対応は

泉沢宏一さん（横越村公民館長）

学校週五日制は時代の流れと共に、生涯学習の一環として位置付けられていると認識しています。

社会教育課としてはどう対応すべきかですが、「学校週五日制連絡会議」を設置して体制づくりを行うと共に、育成者の組織強化も必要ではないかと思います。団体としてはPTAや育成会が考えられます。もちろん、子供会やスポーツ少年団などの少年団体の育成も、五日制を意識した強化が必要ではないかと思っています。

次に、公民館としてはどう対応すべきかですが、移動図書や青少年を対象としたイベント・講座が考えられます。施設についても、学ぶ場だけではなく遊び場としての提供も考えられるでしょう。その他、五日制にむけた家庭教育の充実も必要でしょうし、県の「ふれあい活動促進事業」の活用も一つの方法ではないかと思います。

いずれにせよ、消極的ではなく、積極的に対応していきたいと思っております。

生涯学習時代に向けてそれぞれが担うことは

右近次男さん（司会・コーディネーター 新潟市鏡淵小学校長）

私は、学校教育の本来の役割は基礎学力の育成と、それによる自己学習力の育成の場だと思っております。その視点に立つと今の学校教育から捨てるべきものがたくさんあると思います。

次に、家庭教育の本来の役割ですが、公徳心の基本をしっかりと養うことと、基本的な生活力を養う場ではないかと思います。

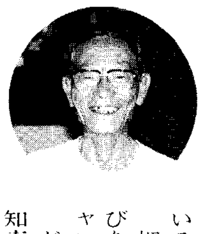
地域教育の役割については、体験・交流活動の場ではないかと思います。そして子供たちはこれからその地域を担う大事な宝です。子供たちをみんなで育て、見守っていくことが地域に課せられているのではないかと思っております。

それでは公民館は何を為すべきでしょう。公民館は地域に開かれ、地域に根差した教育機関ですので、いろいろな体験的教育活動を学校ではなく、公民館を中心に企画・立案すべきではないでしょうか。これが生涯学習時代における、特に学校週五日制をふまえたときの果たすべき役割だと思いますし、期待しているところであります。

ちょこっと一言 (53)

「狸と知恵くらべ」

矢代田十一 **吉田清三郎さん**



職場をやめてから三年になるが、昨年から野菜作りに挑戦をしている。

なす、じゃがいも、ねぎ、トマト、きゅうり、さんどまめなどたいていのものはある。

畑仕事は人のやるのは簡単に見えたが、実際にやってみると難しい。しかし面白い。

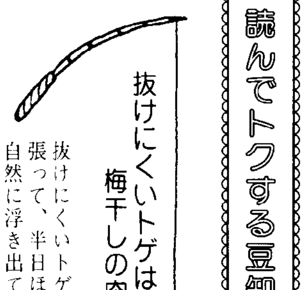
夕方疲れて帰って、風呂のあとの晩酌、これがまたうまい。野菜だけでなく健康も作っている。

畑は山が近いためか、とうきびを収穫する前の晩になるとチャンと狸がでるそうだ。

どうしたらよいか？いま狸と知恵くらべの最中である。

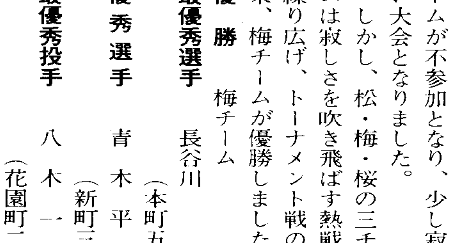
読んでトクする豆知識

抜けにくいトゲは梅干しの肉を張る



抜けにくいトゲは梅干しの肉を張って、半日ほど放っておくと自然に浮き出てきます。

第七回 小須戸分館野球大会
梅チーム優勝



七月十九日、スポーツ公園野球場で、第七回小須戸分館野球大会が行われました。今回は残念ながら竹チームとウデコキチームが不参加となり、少し寂しい大会となりました。

しかし、松・梅・桜の三チームは寂しさを吹き飛ばす熱戦を繰り広げ、トーナメント戦の結果、梅チームが優勝しました。

優勝 梅チーム

最優秀選手 長谷川 均（本町五）

優秀選手 青木平八（新町三）

最優秀投手 八木一彦（花園町二）

新保分館運動会

期日…8月30日(日) 午前9時開会

会場…蔵町五ゲートボール場(雨天の場合町民体育館)

夏まっ盛りの熱い戦い！

老人スポーツ大会 横水分館運動会

七月十六日、町民体育館で毎年恒例の第十七回高齢者スポーツ大会が開催されました。参加されたおじいちゃん、おばあちゃんは童心に返って大はしゃぎをしていました。

優勝は横水チーム、準優勝は矢代田チームで、昨年度優勝の新保チームは惜しくも最下位に終わってしまいました。

また来年、みなさんの元気な姿と笑顔を見せて下さいね。

そして七月十九日、横水保育園グラウンドで四分館のトップを切り、横水分館運動会が開催されました。

こちらも二百名の参加者が熱い戦いを繰り広げました。

他の分館にはない青年駅伝では水田チームが一位でしたが、常に上位にいた小向チームが総合優勝を飾り、水田チームは準優勝、横川浜と文京町の両チームが同点三位でした。

みなさん、暑い中ご苦労様でした。

「向こうに負けるな」
（老人スポーツ大会）

「ぼくイチバーン！」
（横水分館運動会）

七月七日　家庭教育学級つくしんぼ。願いを込めて笹飾り

七月十八日　親子チャレンジ教室。みんなで押し花

新保分館婦人学級 着付け教室
「先生、これでいいですか？」

催し物ご案内

エアロビクス教室 第二期開講

期間　九月三日～十一月二十七日
毎週金曜日
時間　午後七時三十分～九時
会場　ふれあい会館
会費　月額千円
申込み　中央公民館

'92健康ナイトウォーク
～星を見ながら散歩しよう～

期日　八月二十九日(土)
午後七時三十分～十時頃
雨天中止
歩行距離　約九km
集合場所　中央公民館
申込み　八月二十六日(水)までに中央公民館又はふれあい会館へ
持ってくる物　懐中電灯、飲み物、他
※九時十分頃に星の説明があります。

第二回町民親善ゴルフ大会参加者募集

期日　十月六日(火)
会場　湯田上カントリークラブ
参加資格　・小須戸町在住及び町内に勤務している方　・小須戸町出身者及び小須戸中学卒業の方（白根市戸石地区）
会費　一人四千円
競技方法　十八ホールズストロークプレー。ダブルペリア方式
入賞　優勝、準優勝、その他
申込み　九月十八日までに中央公民館へ（申込書有り）
主催　小須戸町親善ゴルフ大会実行委員会
後援　中央公民館

ふくろう講座

「三河白道」
～夫婦の生き方～

期日　九月十一日(金)
午後七時三十分より九時まで
会場　中央公民館二階会議室
お話　大塚正勇さん（新津市）

訂正　八月一日分の町だよりでお知らせした「防火管理者資格付与講習会」で受付期間が落ちていました。
受付期間　九月二日(水)まで。

リングプル収集状況

矢代田剣道スポーツ少年団 全国大会敢闘賞受賞

七月二十五日、二十六日の二日間にわたって、全国から千百五十二チームが参加した、全日本少年剣道錬成大会が日本武道館で行われました。

小須戸町からは小須戸、矢代田剣道スポーツ少年団の2チームが参加し、五回戦まで進出し、惜しくもブロック決勝を逃した矢代田スポーツ少年団が、敢闘賞を獲得しました。

第四十七回 県展入選作品 (3)

「花咲く頃
(二人瞽女)」
（洋画）

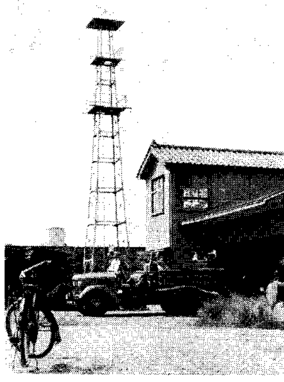
矢代田八
星野富作さん

「瞽女の郷愁への思いを描いてみました」

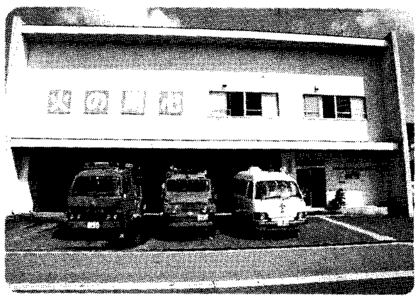
「土」（日本画）
蔵町・
渡辺チイさん

「自然に対する謙虚さと逞しさを画いてみました」

こすどまち今昔写真展 (16)



（昭和35年）



（現　在）

小須戸町消防署　（若葉町3）

小須戸町消防組織の始まりは、明治35年の公設消防組である。昭和25年3月、はじめて消防車が配置され横町に消防署を新設。昭和34年、大川前3に移転。昭和46年4月、白根地区消防事務組合加入により、小須戸分署と改名。昭和51年11月若葉町3に移転。

仮装踊り大募集！
～民謡踊り町内流し～

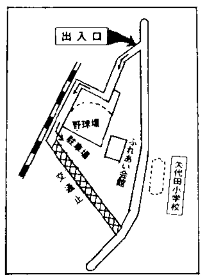
来る八月二十四日に行われる小須戸まつり民謡踊り町内流しに仮装で参加しませんか？

お問い合せは祭協賛会事務局（産業課振興係）へどうぞ。

賞品も多数用意してあります。

下水道工事のため、スポーツ公園への天ケ沢側からの入口が交通止めとなります。矢代田側から出入口をご利用下さい。

交通止期間
八月十七日から
十月二十日まで



新潟県 男子警察官募集

一、採用人員
二十名程度

二、採用年月日
平成五年四月以降

三、受験資格
昭和四十年四月二日から五十年四月一日生まれの男子で、高校卒業程度の学力を有する者。又は平成五年三月三十一日まで大学（短大除く）卒業見込みの者

四、試験日
第一次　九月二十日(日)
第二次　十月下旬
場　所　新潟市ほか

五、受付期間
九月一日(火)まで

※詳しい事は小須戸幹部派出所までおいで下さい。

文芸欄

川柳

釣り合いを取る為に履くローヒール　髙橋ただし
バランスがとれ良く廻る夫婦独楽（おおどごま）　渡辺信子
釣り合いのとれた二人で家も建ち　栗原ひさし
やじろべい釣り合うまでのカッチンコ　小見キン

短歌

初運転の孫を見送りかどに佇ちぬ車の群に紛れ行くまで　児玉サツ子
花筵（はなむしろ）幼子三人ままごとす台所あり玄関もあり　安達順子
故郷の駅に出合いて友二人幾年ぶりかと笑顔はじける　野俣玲子
水道管工事する人掛声のたくましけれど皆若からず　大森美恵子
根付きたる早苗に風の渡りゆく蒲原平野緑はるけし　本多玲子

俳句

片言の児がまねてをり遠郭公（とおかっこう）　山崎しず枝
山の汗山の出湯に流しをり　牧野信雄
飛行機が雲つくりゐる夏の海　松沢キヨ
真先に窓開け放す夏の朝　吉田美樹子
垣越しの話がはずむ梅雨晴間　吉田ミナ
麦刈のまだ人見えて暮れにけり　間島秀穂
穂肥撒き終えて夕日の別れかな　中野太浪

「これは言いたい」の原稿を募集しています。住所・氏名・TELを記入のうえ中央公民館「館報事務局」へ郵送、もしくは持参して下さい。匿名希望はその旨お書き添え下さい。